

育苗 | 田植 | 秋の収穫に向け第一歩

天候に振り回されない技術を確立し、稲刈りまで乗り切ろう！

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



コシアブラ

一雨毎に里山の若葉がその色を増していき、総ての生命が最も輝きを放つ季節です。私の大好きな山菜の季節でもありません。コゴミとモミジガサだけは毎年1〜2回、春作業の合間に近くの山に採りに出かけますが、タラの芽、コシアブラ、ワラビそして少々のゼンマイは家の地続きの山で家族が楽しめる程



モミジガサ

度のものは採取するところができ、里山の暮らしを堪能しています。県内の田植も最盛期を迎えています。農家にとつて最も喜びの時期は収穫期なんですよ。農家は昔から田植には特別な思い入れがあつたようで、今ではすっかり機械化されていきますが、今でも何となく華やいだ気持ちは引きずっているのは私だけでしょか。昨年の高温登熟で種籾の休眠が深く、浸種の際には注意するようにとの事前指導が行われていました。発芽揃いなどはいかがだつ

たでしょうか。身近なところで発芽障害の情報も聞いていません。指導が徹底され、成果が出たのかもしれない。私も浸種のはじめ2日間は15℃に加熱し、浸種時間を長めにとつたお蔭かどうかわかりませんが、発芽にはまったく問題がありませんでした。むしろ、天候が安定せず、異常な高温と低温日が続く返されるなど、育苗ハウスの温度管理に苦労されたのでは無いでしょうか。30年位も3千枚のJAの育苗受託をしていましたが、いままではコシヒカリだけでした。今年は山地の残雪が多く、ハウスの準備が間に合わなかつたので、急遽こしいぶきの苗を引き受けることになりました。こしいぶきの苗は伸びが悪いことを承知して、管理したので夜間温度を高めに、散水も多めに管理していたのですが、出荷1週間前になつても2葉齢の7〜8

ツツと止まらず、伸長がピタツと止まらなかつた。発芽苗が入つたのが4月の14日、出荷は5月の7日に決まつていますから、その間に2・5葉12ツに仕上げなければなりません。根の張りだけは良すぎるとは思いませんでしたが、「おしかり」を受けるとは思いませんでした。皮肉なことに隣の自家用のハウスの内プール育苗の苗は極めて順調に生育していました。ところが14日の朝、苗を見て自分の目を疑つてしまいました。ほぼ11ツ強に伸びているではありませんか。苗丈が一晩で2ツ以上も伸びてくれたことになりました。それまでも夜間温度を高く保つように管理していたのですが、夜間の気温そのものが低かつたのでしよう。「良い苗になりまして」とお褒めをいただきましたが、受託苗の出荷が終われば私の春作業の半分は終わつたも同然なので

す。

さて、有機については今年も新しい試みをするにしました。田植時期を5月末まで遅らせることにしたことです。理由は「草との闘いの期間を短くするためです。本田での稲の生育期間が短くなれば、それだけ雑草処理期間も短くなるからです。播種が4月の19日、播種したものを無加温で屋外プール育苗します。昨年も育苗期間中低温と雨が続き、途中でハウス内に移動して積み重ね発芽させましたが、今年は育苗箱の下に1ツほどの厚みの板を敷いて、箱底が雨水に浸からないように工夫してみました。予想どおり、10日目に揃つて発芽して順調に生育しています。新潟県農林水産部は3月に「コシヒカリB」における有機栽培の手引きを作成しました。

【裏面に続く】

「除草はチエーンで4〜5回実施する」と書かれています。何とか「2〜3回」で対応できないかと虫の良いことを考えています。

週間天気予報などは実中の中です。しかも最近では「異常気象」が当たり前と思えるような天候が続いています。いかなる天候にも対応できるような稲作技術が求められているのでしようが、口で言うほど簡単なものではありません。そんな中でも、育苗・田植は米作りの第一歩です。から理想を追い求めて頑張りたいものです。

《内山常蔵記》

一番がいちばん
県内では例年のごとく、何事も一番と早くも柏崎地区で4月22日に越路早生の移植作業が始まり、5月の連休で半分程度が終わり、残雪の多い地域では6月上旬までかかるので

Agri-s の



農機メンテの部屋 Vol.17

東日本大震災から約二ヶ月が経過しようとしています。また、津波による被災地の復旧が始まろうとしています。が、農地関係の復旧は、目途が立たない所がかなりあるようです。

最近の田植機
近年、徐々に増加傾向にある、作業受託組合等を除けば農業者の高齢化、作業者の休日作業機能力の省力タイプの田植機が人気です。これは移植作業時における、田植機が転回した圃場枕地の荒れた表面をロータリで均しながら移植作業（メーカールにより、さらに枕時においてハンドル操作のみで移植機能も自動と言う物もあり。）を行ない、さらに施肥、除草剤散布及び殺虫剤散布も同時作業できるというものです。さらにアタッチメントの付替えて直播、除草、排水対策の溝切作業等が可能。ただ価格がアタッチメントフル装備で500万円前後、高いと見るか安いと見るかは各自の判断となりますが。

製造責任

環境保全農業への支援
本年4月から施行された環境保全型農業直接支援対策について、10万〜8千円の補助金交付の条件が、まず、エコファーマーの取得（有機栽培者は不必要）、と

5割以上削減した栽培方法を組み合わせたり組み合わせるこの環境保全型農業支援対策は6月末までの申請が必要との事です。該当する方は忘れずに申請してください。（エコファーマーの申請は奇数月が締めです。）



《Agri-S 記》

田植作業中、車輪が動かなくなつたとの連絡で現場急行。現場を見てみると、車体フレームと後輪軸フレームが分離して、後輪が植付部のフレームに引っかかる状態等と、初めての経験。問題は農道の近くならクレーンで引き上げと考えるも、現車は農道から100m先で、深さ50cmという状態。考えた末、建機のコンボで圃場内に入り、田植機を吊り上げ農道まで100m移動し、トラックに乗せ、農家さんと相談。10年前の機械のため、修理を諦め機械の入替となりませんでした。車業界なら絶対リコールになる状態でも農機業界はダメみたいです。

災害に伴う原発の問題
自然災害に伴った原発のあまりに高いリスクにノーと声を上げよう、都内数か所でデモが行われ、モが何回か行われました。（4月20日現在）デモ参加団体に農産物生産団体がかなりあったようでした。（私の処にも参加要請がありました。）

た広大な耕地面積からすれば時間的にも不可能ではないかと、当然、工事期間中の作付けは出来ない。年数が掛れば掛かるほど農地は荒れるし、農業者の年齢は高齢になる。果たしてそれで後継者は残るのだろうか。逆に考えて汚染された農地に吸着率の高い、ほうれん草をはじめ、米なども作付けし、バイオ燃料に供給したらどうだろうかとの提案をされてきました。これには、賛否両論があるかと思えますが、考えさせられる問題だと思えます。